

佳作

地域を大切に思う心

山口県 山口県立徳山高等学校二年 武智 彩夏

これは、家族で祖父母の家に集まり、食事をしていた時の出来事です。

「その後は体調いかがですか。暑い時だから無理しないで下さいね。また困ったことがあれば、いつでも言うって下さいね。」

祖母の話す様子からすると、電話の相手はお年寄りのようです。それから、しばらく電話は終わることがなく、話しは続きました。

なかなか終わらない電話が気になり、私は祖母の横に座り耳を澄ませながら様子をうかがっていました。

そのお年寄りは、ゴミ出しができなくなったのです。また、重たいゴミは膝が悪いからゴミステーションまで持って行けず、家の中にゴミがたくさんあることを、祖母に告げていました。それを聞いた祖母は、

「今から、すぐお家に行きますよ。心配しないで、大丈夫ですよ。後でゆっくりお話ししましょうね。」

といい、電話を切るとすぐに電話の相手となる近所の方

の家まで駆けつけました。しばらくして、帰ってきた祖母は悲しい表情をしていました。

あれだけ元気にされていた近所の方が、日にちも時間も分からなくなり、ゴミ出しができなくなっていたそうです。家の中はゴミで散らかり、あれだけきれい好きだったにも関わらず、変わり果てていた家の中を見て、祖母の心には動揺が広がっていったのが私にも伝わってきました。

後日、祖母はこの状況を専門機関に伝え、支援サービスを受けられるように相談しました。

私の祖母は地域の民生委員です。現在は少子化や核家族化によって、地域の繋がりが薄れていると言われています。その中で高齢者や障害のある方、そして子育てや介護をしている方などが周囲に相談できずに孤立してしまうことが増えてきているそうです。そこで、地域の身近な相談相手として必要な支援を行うのが、民生委員の存在です。

小学生の頃、夏休みになると祖母と一緒に近所の高齢者の方の家に行き、よくお話しをしていたことを思い出します。

この出来事を振り返ると、普段の生活の中で人と人が繋がりが合うことが大切なことだということを身にしみて思います。

私が住んでいる地域では、幼い頃から地域の方々に見

守られ、支えられながら、私たちは大きく成長することができました。また、地域の行事を通し、地域の人と人

とがふれ合うことの楽しさを教わり、地域の人と人との繋がりの強さを感じてきました、

小さい身体で大きなランドセルを背負った小学校の登校時間には、

「おはようございます。行ってらっしゃい。」

と、声をかけてもらい、雨の日も寒い雪の日も毎朝、横断歩道で地域の見守り隊の方々による交通立哨。信号が変わる短い時間だけど、色々とお話をするのが楽しかったことが思い出されます。また、私たちが楽しみにしている地域の行事では、公民館のふるさと祭りや、夏のそうめん流し、どんど焼き。昔から受け継がれている、さんさ踊り大会があります。

地域の方々はいつも全力で、どうやらみんなに楽しんでもらえるのか、アイディアを出しながら地域のために活動していました。高校生になった今でも、地域の方々との交流は続いていて、行事にはボランティアとして参加しています。

地域の方がよく口にされる言葉があります。「子どもは、地域の宝」と。学生が参加すると、地域の方もとても喜ばれ、その優しい笑顔に私の心は、いつもほっこりします。

祖母の民生委員の活動や、私の住んでいる地域の方々

との絆をヒントに、私は考えました。

誰もが人と人とのつながりを持ち、支え合いながら生活していくことの第一歩には、相手を思いやる心を育んでいくことが大切だと考えます。そうすることで、「共生・共助社会」の実現に繋がるのだと考えます。

大きく成長させてもらった地域の方々に感謝し、地域を大切に思う心を持ち続けていきたいと思いました。

高校生の私にできることは限られています。行事などで地域の方々との交流の機会に積極的に参加し、絆を絶やさず、地域の活動を応援し継承していきたいです。

私は将来、医師になり、育ててもらった地域に恩返し、貢献したいという目標を持っています。

地域の方々を病気から救うことだけではなく、心を通わすことを大切にしたいと考えています。そして、たった一言で、誰の心にも寄り添えるそんな医師を目指しています。

ずっとずっと遠い、未来。いや、私の未来はすぐそこに。